

2020年



法人設立
20周年記念誌



社会福祉法人 童里夢

基本理念

「共に汗し 共に笑い 共に語ろう」

- 1 一人ひとりすべての人としての存在の尊厳の下に、誰もが生まれてきたことの甲斐があることを大切にします。
- 2 個々の自由な自己表現を願い、共感と共生の社会を創りたいと考えます。
- 3 障害者が社会の対等な構成員として、人権が尊重され、自己選択と自己決定ができ、社会のあらゆる活動に参加・参画し、その一員としての責任を分担する社会づくりをおこなうことです。
- 4 障害者の未来を明るいもとするために、広い視野と長期的な展望を持って事業経営にあたります。

目次

基本理念・目次	2		
法人概要	3		
童里夢創立者「三婆」対談	4		
応援メッセージ	8		
ご家族からのメッセージ	10		
多機能型事業所 童里夢	12	生活介護事業所 奏楽	17
れすとらんくう	13	相談員	18
ばくばくぱん	14	Cafe 奏	19
雑貨屋すまいる	15	OYATU工房といろ	20
Pan-Kan製造センター	16	軽作業 楽 ²	21
		共同生活支援 ぱあとなあ	22
		紬・ひまわり	23
		地域生活支援センター すたあと	24
		施設案内	26

法人概要 ～20年の歩み

2000-2020～

2000年 9月
(平成12年)

「社会福祉法人 童里夢」設立

2001年 10月
(平成13年)

「知的障害者授産施設 童里夢」開所(定員30名)

2003年 4月
(平成15年)

「知的障害者授産施設 童里夢」短期入所事業開始(定員3名)
グループホーム「いきいきハウス」開設(定員4名)



2005年 1月
(平成17年) 4月

「地域生活支援センターすたあと」開設 居宅介護 開始
「地域生活支援センターすたあと」短期入所 開始

ロンドンで同時爆破事件・愛知万博開催



2006年 4月
(平成18年) 11月

グループホーム「ひまわりハウス」開設(利用者4名)
「共同生活支援ばあとなあ」事業指定

「地域生活支援センターすたあと」指定 居宅介護・重度訪問介護 開始
行動援護・短期入所 開始
移動支援 開始

「知的障害者授産施設 童里夢」日中一時支援事業開始

日本郵政民営化(JP発足)

2008年 4月
(平成20年) 6月
9月

グループホーム「かなだハウス」県営金田住宅内開設(利用者4名)
「地域生活支援センターすたあと」相談支援事業開始
「就労生活支援センター 童里夢」
(生活介護 定員34名・就労移行支援 定員6名・就労継続支援B型 定員10名)
事業、名称変更

リーマンブラザーズ破綻をきっかけに金融危機

2009年 2月
(平成21年)

「就労生活支援センター 童里夢 Pan-Kan製造センター」開所

3.11東日本大震災

消費税8%に増税

2011年
2014年

2015年 4月
(平成27年)

「多機能型事業所 童里夢」
(生活介護定員30名・就労継続支援B型定員10名)事業、名称変更
「生活介護事業 奏楽」開所(生活介護事業 定員30名)
「相談支援事業 奏楽」開設

熊本・大分で大地震

2016年

2018年 4
(平成30年)

グループホーム「紬」開設(定員13名)

2020年
(令和2年)

20周年を迎える

コロナウィルス世界に猛威



創設者 三婆 夢の対談

～小規模(無認可)時代、そして法人化20年！～

理事長 大森 妙子



理事 小林 万知子



元理事 市古 尚子



創設者3名の大森さん、市古さん、小林さんが三婆と呼ばれて20年が経ちました。

《三婆と呼ばれながら今までやってきてどのように感じ、どう思っていましたか。》

市古)三婆の意味を今更ながら調べてみると、ちょっとした意味があるの。というのは歌舞伎で時代物の母親役のうち、演技が難しく女形の役者にとって演じ甲斐のある3役のことを言うんだって。

大森)私たち3人もそれぞれタイプが違い、三人三様の役割があつてね。自然にそうなつたね。

市古)そう、私たちにも当てはまるよね。ただの三人の婆さんじゃなくてちょっとだけプライドを持った三婆でもいいのかなって思っちゃったりして。

大森)ただの婆さんって言われていると解釈したことはないねえ。

市古)母親でも強い信念を持って行動していく中の三婆。ところで誰が最初に言ったっけ？

大森)えっと、バラさん！どおりむ応援団の桑原明美さん(後援会元役員さん)に命名して頂いて嬉しかったよ。

市古)私たちはそれぞれ違っても自己中ってことは共通してるかな。面白いことないかなあ、面白いことやりたいなって、いつも思ってたねえ。

大森)そうだね。

市古)三婆って言われる度に有り難いけど、一方で、何か伝えないととか発信していかないと、という責任ある立場にあることを認識する機会でもありました。

《小規模(無認可)の頃から法人化して楽しかったこと、苦しかったことなど思い出をお聞かせください》

市古)小規模の頃の事はいっぱい出てくるの。

大森)みんなはじけとつたね～、若かつたしね～、小規模(無認可)の頃は法律的な縛りがほとんどなかったから、やりたいと思ったことは何でもやったね。こういう期間が6年半あって自由で楽しかった。だけど経済的にはすごく貧乏だったから利用者さんも職員さんも一生懸命働いたよ。最初のころは法人化することは考えていなかった。だけど使っている建物が凄く古かったので建て替えの必要はあるかなと思っていてね。と

いう事で利用者さん、お母さん方にご理解頂いて貯金はしてたよ。その貯金は法人化の時にとっても役立ちました。

私たちは東浦町にある「ひかりのさと」という施設の考え方をとても尊敬していました。その先輩の教えによると、障害のある方が地域で暮らし続けるためには働く場のサービスが整っただけでは足りない。グループホーム、すたあと(ヘルパー事業所)みたいなのが必要との事で、私たちはそれらが欲しい！24時間サービスが繋がる構造にしたいと思っていました。そこで、ちょっとグループホームのまねごとしちゃう？って事で「四苦八苦荘」(しゅくはっくそうと名付けて借家を活用した宿泊場)を開設。

小林)うん、やったやった！

市古)これも親の支援が無ければできなかったよ。



大森) 苦しいこともあったけど新たなことに進んでいく希望があった。次から次へと、楽しかったよね。

小林) すたあと(ヘルパー事業所)をやる前の支援もやったね。

大森) そう、移動支援みたいなもので、土日は利用者さんの仕事が休みになるからみんなで色々な所へ行って、大げさに言うと365日ずーっと童里夢だったね。

市古) 楽しかったよね。次から次へと新しいことが降って沸いて来てね。

それで思い出したのがみんなでチューブのコンサートへ行ったの。チューブのCD毎日聞いていっぱい練習してノリノリでコンサートに行ったんですよ。ちょっとハラハラドキドキしながらも無事に行けたっていうのは良かった。よく行ったなあと思ってね。

大森) こんな風にみんなで色々な事をやって充実した毎日を過ごしたの。でも、このままではいけないとだんだん感じて来たね。というのはボランティア的な労力と経費の個人負担に支えられて成り立っている活動では長くは続かない。障害のある方が自分に必要なサービスを繋ぎ合わせて地域で安心して豊かに暮らし続けるためには、サービスの種類が多岐にわたり且つ継続的に提供できる環境でないと。

小林) という事で、いよいよ法人化に向けた活動を始める事にしたの。

大森) でも、これは私たちにとっては高いハードルでなかなか勇気が沸いてこなくて。じゃあ、大勢の人に「法人化します！」と宣言しちゃえばもうやるしかないね。という事でライフポートで「法人化セレモニー」をやり、いよいよ始まりました。



市古) 実行委員会をつかって、法人化に向けて何をやっていくか、どんな準備が必要かどんな施設にするかなどなど、夜が明けるまでたくさん話し合ったねえ。

小林) 資金も作らないかんという事で映画上映会をたくさんやって、とにかくイベントづくし。そんな中、桜丘高校のボランティア部さんやその他の生徒さんやOBの皆さんがずっと手伝ってくれてね。

市古) 小林さんがイベント担当、大森さんが行政関係担当、私が小規模を守る担当でね。

市古) 法人の職員を募集したときに実習を希望する人が何人もいた。電話対応した時も童里夢にすごく興味を持ってくれたことが嬉しくて、中にはもう一度話を聞きたいとかで来てくださった方とかで、私は前向きな姿勢になれた。大変だったけどね。

市古) バザーの時なんか必ず募金箱置きちゃってさー。桜丘高校には申し訳なかったけど「寄付をお願いします〜す！」って、一杯叫ばせてもらってね。

大森) やってみて分かったけど寄付を集める事はかなりの大変な事だし困難なことでした。

大森) 社会福祉法人設立のための申請書類が整ったのちに、行政によるヒヤリングがあってね。「レストランをやる計画になっているけど、石巻の田舎でやって大丈夫？」とご心配を頂いた。我々には童里夢でレストランをやることはとても意味のある事だったので、「頑張ります！」って言い切ったの。普通にレストランに来てみたら障害のある方達が一生懸命働いていて、料理はとびっきり美味しくて、この自然な出会いがその後色々な理解に繋がりますよようにって思ったね。やり出したら大ヒットでね。当時、東三河の福祉施設の中で飲食業をやっていたのはうちだけだったかな。

市古) その後、グループホーム第1号が乗小路にあるアパート借りて、平成15年に開所し女性が4名のホーム。童里夢ならではのグループホームを作りたいかったので、話し合うのは利用者さんも親も一緒。どういう風にしたらいいかねって、どうするねって、みんなで参加したのが一番最初のグループホーム、本当に大事にしたかった。みんなで話し合って作り上げたなって思ってる。



市古)グループホーム立ち上げ後、小規模(無認可)の時からずっとやって来た卵販売の仕事を法人化後の新しい職員さんにバトンタッチしたの。そしたら力抜けちゃって、気持ちも抜けちゃって、燃え尽き症候群みたいになっちゃったの。ところが大森さんからの一本の電話があって、「次にまたやるべきことがあるの。力を貸してください」とのことでもた目的ができたの、それがヘルパーステーション！(すたあとの立ち上げ)

すたあとのときだってさー、建物もない資金もない、ほんとに資金には少しゆとりができるはずの法人化だったのにさ、また小規模(無認可)に逆戻りみたいでね。そんな思いをしながらも、だけど何か楽しかったね。



大森)その後には、ひまわりハウスや金田住宅をお借りしてのかなだハウスなどのグループホームの増設をやって、平成21年の冬にはPan-Kan製造センターが完成しましたね。

大森)こうした間に法律がめまぐるしく変わってさー、政権が民主党になったり、自民党に戻ったりで、福祉も揺れに揺れどんどん運営が厳しくなっていた。行政に提出する書類は増える一方で報酬単価は削られるばかり。また、法人は法律に基づいて活動するので、やれることが増えるがやれなくなることもあったかな。

すたあと(ヘルパー事業所)では、次々とサービスの種類が増えていったね。

小林)私は開所当初からしばらくの間れすとらん班に所属していたのね。で、そこは福祉福祉したものでなく、普通の飲食店の延長線上の職場みたいな感じだったから少し自分の思いとはちぐはぐするところがあったけど。

その後に移ったすたあと(ヘルパー事業所)に私も市古さんもいたので、そこで伝えたいなって思うことを二人でね、伝えて来たよね。

大森)私は、法人化の諸々の活動が終わった後、1年程は頭がボーとして何も考えられず体も動かない感じでね。市古さんと同じ燃え尽き症候群でしょうかねえ。当時の施設長を始めとしやる気満々の職員の皆さんがいて下さるといふ安堵感からでしょうね。その後元気を取り戻した私は、童里夢に関わる皆さんは元気でいてくれるかな？と、気になってちょこちょこ足を運ぶ様になりました。そして、開所から4年程過ぎた頃、みんなの気持ちが一つになってないかも？と思い、三婆がまず集まり本部をつくり、当時の施設長と共に定期的な経営会議をやって改善を試みたものの上手く行かない。なんとかしないとと思った時、現コンサルタントの八木さんに巡り会えたと同時に現業務執行理事の橋元さんが前向きに、思慮深く、冷静に現状を受け止めて下さって、沈みかけている船をこのお二人で引き上げて下さって今日があるのです。

《一番伝えたいこと 未来に向けて 今の童里夢に求めたいこと これだけは継いで欲しいこと》

大森)今の法人童里夢で思うことは、「私は職員」「あなたは利用者」、職員さんがどちらかというように上において、利用者さんが下にいるっていうのを感じる時があります。

職員さんと利用者さんは常に横において対等で、これは私がやるからこれは利用者さんにお願ひ！みたいな。まさしく共に喜んで、働いて、遊んでって感じ。もちろんすでに実践される方も見えますよ。

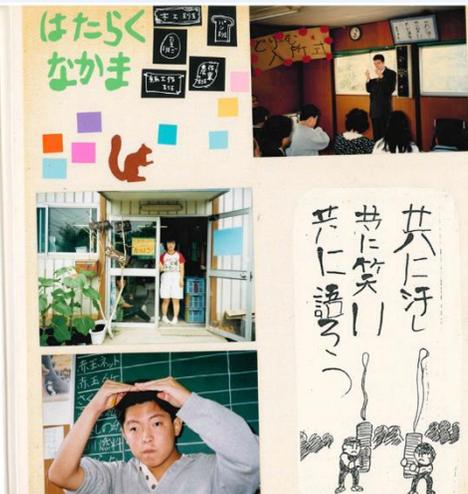
市古)本当に共にやっていく、時には利用者さんに助けてもらってるっていう自覚を持つといいかもね。

大森)みんな結構頼れるところがあるじゃんね。

秘めてる力を発揮できるっていうのは、日々の中でその人のためを思って、自然な形だけどちょっとだけ意図的に、現状より少し難しいことを設定し、それを体験する事でもともとあった力が開花すると思う。

市古)すごい難しい事だけどね 言葉で言い表すのは凄く難しいんだけども……。

大森)まず最初は、できるって思ってる。利用者さん達はそこに至るまでの時間に個人差があり、持って行き方も個人によって違う。とにかく続けて本人が何年も積み重ねて行けばできると思ってる。ただ、障害のある人達一人ひとりが歩んで行きたいものに共感し共有してくれる人が必要。私たちはそれぞれのサービスを提供する中で「どうしたい？」って同じ目線で本気で聞く。「それだったら、私がやるから、これは自分で頑張ってるよ」と、一緒になって夢描いて夢に向かう。



小林)そうだね。

市古)考えていく道筋がたてられない部分もあるから、そこを私たちがちょっとフォローすると本人さんは自分の問題として考えていけるところってあるよね。

大森)結果的にできないことはもちろんあるけど、まず最初はできるって思う。困難そうな事はどうしたら近づけるかを考える。「まあ、ここまでだな」って思って関わるとそこで終わる。

小林)そうだよね。できるって思って付き合うから、可能性が見えてくる。

大森)口で説明しても伝わらない事はいくらでもあるから、ほんの小さな1歩をまず一緒に踏み出す。

市古)そうだね。一緒にやらなければ、その人がどこでできないかが結局わからない。

一緒に本当にやってみて、ここで詰まっちゃうんだって見つけて。

こちら勉強させてもらいながら言葉をかけてくと「一歩進んだじゃん」みたいな。

それがちょっと私たちの喜びになったりとかね。

利用者さんの想いを、汲み取ることができたらっていうかね。

小林)汲み取ろうとしているのか、していないかっていうところが一番大事じゃんね。

大森)「共に汗し」っていうのは小林さんが「ひかりのさと」のものを持ってきてくれた。

小林)「ひかりのさと」には共にっていうのはもっとたくさんあって、共になんとかってを参考にさせてもらったものだよ。

大森)童里夢の長い基本理念を、尊敬する「ひかりのさと」の考えを用いて、言い易く頭に残り易くしてくれた事に感謝です。

ただ、「共に汗し・・・」を一緒に作業やって汗かこうね、みたいな解釈に留まってしまうちょっと不安なので、時には元の基本理念と基本方針を読み返して頂いて、深い意味に触れて理念の奥底にあるものを感じながら、これからもお互いにご機嫌な日々を過ごしたいと思っています。

童里夢が法人化から20年を迎えることができましたのも支えて下さった多くの方のおかげと思っています。

そして遡れば平成2年に「障害のある人達の働く場をつくろう」と、母親たちが立ち上がった30年前からの長い間、本当にほんとうに多くの方達のご理解とご協力を頂いてまいりました。

感謝してもしきれないほどと思っています。

心よりお礼申し上げます。



応援めっせーじ



石巻町金田区自治会

会長 菅沼 弘一様

設立20周年おめでとうございます。

この20年、その成長を地域のみなさんから暖かく、ときに厳しく見つめられてきました。その期待に見事に応えた個性を認め合い、共に働き、助け合い、地域に貢献する発展的事業展開には素晴らしく驚かされます。

21年目を迎えたここから更に個性を生かした創造、飛躍と挑戦を進め、地域の一員としての存在感を強めて、発展し続けることを期待します。



ボランティア 桑原 明美様

20周年誠にありがとうございます。

しっかりと根をおろした木のように安定した童里夢になっているのは、道ひと筋の生き方に徹した3人のお母さんを中心に、幸福追求権を拠り所に仲間達によりそい今日を迎えられた職員の皆さんの力が大きいと感じます。古い童里夢で過ごしたイベントの数々、新しい童里夢の1周年、2周年・・・、今も時々振り返りたくなる充実した日々でした。コロナウィルス、豪雨など目の前に拓がる試練も仲間たちの笑顔で共に乗り越えて下さい。明るい太陽の出梅はもうそこに見えています。童里夢の皆さん、出会ってから今日までずっとありがとう！！



豊橋市手をつなぐ育成会

会長 鈴木 佐和子様

童里夢20周年、おめでとうございます！

20年前というと私はまだ、先輩お母様方が大変な思いをされていたことを全く知りませんでした。数年後、育成会の役員となって初めて大森さんをはじめ多くの先輩方のお話を聞く機会を得ることができ、今があるのは皆さんのお陰であることを知りました。昨今は福祉サービスも充実し新しい風も吹いていますが、童里夢さんには、これからも豊橋の障害福祉を引っ張っていただきたいと思います！



東三河社会就労センター連絡協議会 会長

授産所ふくふく 管理者 北尾 健二様

20周年、誠にありがとうございます。

東三河で小規模作業所から社会福祉法人化にいち早く取り組まれた童里夢さん。その活動の轍を頼りに、同じく小規模作業所を母体とする社会福祉法人ふたばも歩んで来られたと思っています。

仲間の目線で寄り添い、汗し、楽しむパイオニア。その背中に少しでも追いつき、共に歩めるようになることが目標です。これからも走り続けてください！



ボランティア 鈴木 良子様

20周年、誠にありがとうございます。大変な時(コロナウィルス)で残念ですがこの期に参加でき嬉しく思います。童里夢、奏楽、すたあとと何も知らなかった私がこれ迄関わってこれたのも職員、利用者の方々のお陰です。ありがとうございました。今は体調を崩し茶道、料理クラブをお手伝いしていますが又皆さんと一緒に楽しくお手伝い出来る様復調に頑張っています。最後に皆様の平素の心遣いに感謝すると共に更なるご発展を期待しています。

当初、太鼓クラブは太鼓がなく45Lのバケツにガムテープを貼って叩いていました。面白いと思うことは何でもやってきたので、いまでは踊って歌って叩く太鼓クラブになっています。エイサーで職員の方が三味線と歌に挑戦し、生演奏で叩いて踊る



ことができた時はみんなで1つのことを成し遂げた達成感がありました。今後も頑張ってください。

太鼓クラブ 竹内 香澄

20周年おめでとうございます。クラブの皆さんは、フリーポーズやダンスでいろんな一面を見せて下さり、ダンスは自己表現の場でありコミュニケーションの一つだと実感しました。おそろいのバンダナで、初めて披露した時の生き生きとした姿が心に残っています。

ダンスクラブ 伊藤 聖子



20周年おめでとうございます。

ダンスクラブの講師になってまだ数年ですが、いつも皆さんのキラキラ輝く瞳に、弾けんばかりの身体表現に、私の方がパワーをいただいております。また、元気いっぱいにはしゃぎましょうね！

ダンスクラブ 河原 郁恵



法人設立20周年！スタッフ、そして家族会の皆様の努力で今日有り、お喜び申し上げます。クラブも17年目に感謝です！気持ちは初心！メンバーが楽しい時間であり、毎回発見を！と工夫



してきました。今後もメンバーに思いやりの心と和の大切さを知って頂きたいと努力してまいります。

茶道クラブ 小野 晴美

料理クラブとして発足して10余年。月1回の活動は楽しみです。季節のテーマや材料を取り入れ皆で考えるメニューも随分増えました。失敗した時も「でも、おいしかったね」でまとまります。優しい心が私たちの励みです。いつまでも続きますように。

料理クラブ 石田 由子



童里夢20周年おめでとうございます。立ち上げの看板作り、周年祭のイベント、料理クラブ、パン販売、折り込みのお手伝いなど楽しい時を皆と関わらせてもらいました。私自身、人とのつながりも広がり感謝の気持ちでいっぱい입니다。童里夢の輪が今後も広がるように願っています。



料理クラブ 田中 美紀子

絵画クラブの講師になって十数年、とても楽しい時間を共有してきました。彼ら夫々の色彩感覚、夫々の形は真似できるものではありません。心赴くままの作品は絵描きの一人として、時に羨ましいほどです。これからも共に高めていきたいと思ひます。



絵画クラブ 丹羽 きよみ

音楽は性別、年齢、個人差に関係なく、皆が一つになれる力がある。高齢者の健康教室が多い中、音楽の若い皆さんと、季節の歌で、流行の曲で体を動かす事を私が一番楽しんでいるかもしれません。時にはゲームで盛り上げる事も。これからもよろしくです。



リズム体操クラブ 峯野 恵子

20周年お慶び申し上げます。

さをり織りをクラブとして使って下さってとてもうれしく感じます。月に一度だけなので、すぐに織り上がる事は出来ませんが少しずつでも前に進んでおります。自分の物を作りたいと希望もあってとてもいい事と思ひます。これから楽しい作品ができあがるといいですね。



さをり織りクラブ 芳賀 恵子

ご家族からのメッセージ

20周年元気に通所できたのだなという感慨深いものがあります。職員、利用者、家族各々が連携し、年々法人として成長されてきたと思っています。研修もしっかりされてきて、アンケート等も細かく要望を聞いて頂いています。現状に満足することなく、常に利用者一人一人が輝いていける法人であろうとする姿勢に期待をしています。どこよりも童里夢が一番！とみんなが思う法人であることを家族の立場としても協力が出来たらと思います。沢山の方に支え、助けて頂いていることに心より感謝を申し上げます、今後も益々お力添え頂きたくお願い申し上げます。

未来に向け、これからも一步一步確実に発展していただくことを望みます。私もサポーターの一員として、応援しております。また、何かできることがあれば頑張ってお参加します。

童里夢に入れていただき10年がたちました。改めて10年もすぎたのだと驚いています。最初は環境の変化に弱い息子をとて心配しましたが、自分に合った仕事を与えていただき、楽しく通えるようになりました。これからもよろしくお願い致します。

レストランのいちスタッフとして働かせてもらって早20年。いつの頃からか洗い場を任せられ、山のような洗い物を何のその。天職のように張り切って働いているわが子を見るとうれしくなる。大好きな童里夢、これからもよろしく！！

童里夢20周年おめでとうございます。
これからも利用者さん同士仲良く、そしてスタッフの皆さんにいろいろ指導して頂いて成長して欲しいです！

近年、障害者を取り巻く環境は随分変わりました。難しい局面もあったと思いますが、その都度乗り越えてこられ頭が下がる思いです。
元気よく出かける姿をみて居場所がある幸せと何かあれば相談できる心強さをいつも感じています。

若い職員さんにお世話になることが多くなりました。とても頼もしいです。福祉に失望することなく、生きがいを感じて仕事を続けられたら、本当に素敵だと思います。童里夢の力、信じています。

「いらっしゃいませ」がしたいが始まりでした。でも、「ぼくもやってみたい！」という気持ちが芽生え始め色々なことに挑戦しています。
失敗しては泣いての毎日ですが、いつかエースになると息子は諦めずに今も夢に向かっていきます。

今年29歳になる息子が初めて童里夢に体験学習として行かせて頂いたのは中学生の頃でした。それから15年余童里夢は息子にとって、また私達家族にとってもいつも気持ちに寄り添ってくれる心とむ場所です。

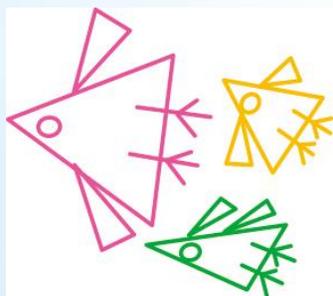
20年間、色々なことがありました。そして今、何も言えなかった娘が一人でできない事を「手伝って」と自分で言えるようになりました。すごい成長です。大好きな仲間、職員に囲まれて頑張っている娘にエールを送りたいと思います。これからもよろしく。

童里夢に入って芽生えたチャレンジ精神「さをり織り」「クッキー作り」にやりがいを見つけ自信につながっています。いろんなことが経験出来て夢を見させてくれるそんな童里夢であって欲しいです。

奏楽の生活に慣れるまで、何年もかかり、体調を崩す事が多かったですが、今は元気で楽しい時間を過ごせる様になりました。職員さんとの信頼関係や自分の居場所なんだという、認識を感じている様に思います。

自分はだめだーと引っ込み思案がぱん(製品)ができるようになり少しずつ自信ができてきました。これも職員の方が根気よく教えて下さったおかげと感謝いたしております。家事も色々やってくれるようになり助かっております。童里夢の益々の発展を願っております。

ぱくぱくパンで20年、パンを作り続けました。成人式では振り袖姿でみんなにお祝いしてもらい、笑顔いっぱい。うずらサブレはみんな大好きで、お土産に重宝します。これからも事故やケガなくおいしいパンを作り続けてね。



毎日楽しく通っています！仲間も職員さんのことも大好きで、通うことが“生きがい”になっています。

奏楽への入所時に慣れない環境の中、職員の皆様方には大変ご心配おかけ致しました。長い期間かかりました。家族でも理解出来ないこと、関わりをどのようにしたらよいかの中、成長していることを実感しています。ありがとうございます。

童里夢にお世話になって10年。2つの場所で仕事を両立しながら充実した日々を送ることができています。ありがとうございます。スタッフの方達に恵まれアットホームな居場所に感謝です。30周年、40周年と童里夢の未来に希望を託します。

いつも優しく明るく気配りできるようになりました。みんなと童里夢で仕事ができるのが一番の幸せです。これからも安心して成長できる場となりますようお願い致します。

童里夢、奏楽にお世話になって、もう12年たちます。初めは、やめたいと言っていましたが、最近では楽しかった事など話してくれます。

多機能型事業所 童里夢



管理者
福井 正之



社会福祉法人 童里夢も2020年9月で法人設立20年を迎えました。この多機能型事業所童里夢は、法人設立の1年後、2001年9月に「知的障害者授産施設 童里夢」として開所しました。実際、童里夢もこれまで、法律や社会情勢、地域福祉の動向、利用者ニーズ等の移り変わりにより、様々な事業体系を経て、現在の「多機能型事業所 童里夢」として、生活介護と就労継続B型へと変化をしてきました。自分自身も童里夢開所とともに入職し、成人式の2倍以上の年齢を超えました。中国古典の「論語」では「四十にして惑わず」から40歳は「不惑」といいますが、40歳を過ぎた今でも、とても「不惑」とは言えない毎日を過ごしています。

20年の歳月は、人に例えると成人式を迎える年齢であり、人生におけるターニングポイントだといえます。20歳は大人としての責任と行動が求められる一方、将来の自身に対する夢や希望に満ちた時期でもあります。社会福祉法人 童里夢の20年は、様々な状況の変化の中、人の成長と同様にたくさんの方々に支えられ、協力いただき、共感していただくことで迎えることができました。しかし、社会福祉法人としては、まだまだ若い法人であり、人に例えるなら、現在も「成長期」だといえます。この法人設立20周年をきっかけに、今まで以上に法人としての責任と使命を自覚しつつ、法人設立当初のフレッシュな気持ちで、夢や希望を職員始め、利用者の皆さんやご家族の皆さん、また地域の皆さんと共感し成長できる法人でありたいと思います。自分自身も入職時と比べて数倍以上の責任と役割が求められていることを自覚し、変化を恐れず、チャンスと捉え、法人同様「成長期」のつもりで前に進みたいと思います。そして、次の10年を迎えるまでに「五十にして天命を知る」「知命」と言えるようになりたいです。



「童里夢」との出会い。室内なのに隙間風や蛾などの虫がブンブン翔んだ中で法人化に向けての会議。夢への航路に奮闘していた『三婆』との出会いでした。常に理念に立ち返り輝く未来に引き継いでいきます。

事務 鈴木 早苗

レストランくう



利用者さんが一生懸命にがんばっている姿と、時に見れる笑顔に毎日癒されています。利用者さんにも童里夢に来るのが楽しいと思ってもらえる支援ができるように心掛け、これからも頑張っていきたいです。

山崎 陽子

毎日、利用者の方々に元気もらっています。レストラン班の利用者の方々には働く喜び、役に立つこと、必要とされること、感謝される喜びを感じることができる、そんな班になれるように今後もみんなで頑張っていきたいです。

鈴木 香菜



障害者と共に創るレストランとして、給食や店舗運営、お弁当、お惣菜と目まぐるしい1日で疲れることもあります。そんな中でも日々楽しそうに働く利用者さんに疲れた心も癒されます。これからも笑顔で癒される班として頑張っていきたいです。

平松 敏子

お店にお客さんが来店した時の「いらっしゃいませ！」と言う時の利用者さんの笑顔はレストランくうでの一番の宝物です。そんな宝物をより輝かせるためにも笑顔を大切にしていきます！

青山 祐介

ぱくぱくぱん



周りが天然酵母パンって何？という時代小規模作業所童里夢では、すでに天然酵母パンを作っていました。豊橋では、天然酵母パンだけを作っているパン屋はどこにもなかったです。これからも大切にしている天然酵母を守り続けたいです。
藤原 浩子



いつか、こんな時代も過ぎ去りみんなが作ったパンに注文が殺到して毎日が忙しくも、きっと仲良しのみんなならお互いを気遣い、笑顔でお客様にパンを渡していることでしょう。一緒に働いているといいなあ。
柴田 昌彦

素敵な利用者さんやお客様方の存在のおかげで法人20周年を迎えられることに感謝しております。童里夢の利用者さん一人ひとりのことが大好きです。ぱん班で働き始めて2年半ですが大切な思い出であふれています。
加藤 芳奈



雑貨屋すまいる



雑貨班は笑顔あふれる班です。これから笑顔があふれ、みんなが自分らしく安心して過ごせる場所を提供できるよう、微力ながら頑張っていきたいです。
朝河 碧

童里夢で10年利用者さん達に囲まれ学ぶことも多く人として成長させていただくこともありました。小規模からの立ち上げの苦労を無駄にせず、誰もが童里夢に行きたい！と思う様な施設になり、躍進される事を願っています。
竹内 瑞江

雑貨班の作業場が2つになりました。少人数化したことにより細かな支援ができるようになったと感じます。作業時は時の流れでいろいろな変化がありますが、支援の質は変わらぬよう努めていきたいと願っています。
外山 理恵



雑貨班では毎日楽しくみんなでご過ごしています。これからも楽しい雰囲気であみななが一日一日を充実した毎日をご過ごせるように全力を尽くしていきたいです。
河合 洋一

コオロギの飼育販売を開始しました。生き物を育てることは簡単なことじゃありません。生き物を育てることを通していろんな感情を知って今以上に感情豊かになってほしいです。
福澤 嵐

Pan-Kan 製造センター



勤務して17年、当初福祉のことは何もわからず、利用者さんと関わり、職員の方々に支えられ今日までできました。笑顔で毎日を楽しみ、利用者さんの頑張る姿と共に成長していきたいと思います。

牛山 智浩



みんなで協力し合ってパン缶を作っています。それぞれ自分の作業に責任を持ち日々「おいしいパン缶をお届けしようね」と頑張っています。困ったときには助け合い、チームワークのよいパン缶であり続けていきたいです。

芦沢 由縁



童里夢では教材、木工、コオロギの飼育、パン作り、ヘルパーなど経験させてもらい、利用者支援の中でも成長、また楽しませてもらい感謝です。今後も利用者さんとそして童里夢と共に成長し続けていきたいと思います。

関根 清美



私がお世話になったのは開所1年後から。昨年パンカンへ異動になるまでレストランで！！公私共に分刻みの生活でした。今ここにいるのはHさんと利用者さん達の笑顔のおかげです。これからも誰もが笑顔で過ごせることを祈ります。

橋本 真弓

生活介護事業所 奏楽

竣工式



管理者
中島 博之



私と童里夢との出会いは今から16年前になります。前職を辞し、ヘルパー資格取得の学校に通っている時、童里夢の当初の施設長が特別講師として来てくださいました。講義の中で童里夢の設立の経緯や理念、障害福祉に対する熱い思いを聞き本当にそんな施設があるのならこの目で見てみたいと見学させて頂きました。見学した際の第一印象は、『とにかくみんな明るくて、なんか癒される』でした。不思議な魅力を感じて、もっと童里夢のことが知りたくなり、その後も時々ボランティアとしてお手伝いをさせていただくようになりました。ボランティアに行く都度、ある利用者さんは、満面の笑みとフルネームの連呼で歓迎して下さい恥ずかしいような嬉しいような気がしたことは今でも鮮明に覚えています。当時の童里夢のパンフレットも印象的で農作業に汗する利用者さんたちの姿がまぶしく、パンフレットに大きく書いてあった理念の『共に汗し、共に笑い、共に語ろう』を体現していると感じ大いに共感しました。時は過ぎて、いつの間にか職員となり、4年前から管理者となりました。この度、法人設立20年を迎えるにあたって、自分自身を振り返ってみると、至らないことも多くあり、反省することがしばしばです。法人全体を振り返ってみると、初めの10年は情熱全開で突き進み、次の10年は体制の確立だったように思います。そして、これからの10年は飛躍ではないでしょうか。そのためには、皆が一致団結して進む必要があります。利用者さんも職員さんも不要な人は誰もおらず皆かけがえのない存在です。得意な事、苦手な事はそれぞれ違うかもしれませんが、得意を活かし、苦手は誰かがフォローして行きましょう。役割、立場もそれぞれ違いますが、童里夢オーケストラとしてそれぞれが任された役割を果たし、オリジナルのすばらしいハーモニーを奏でて行きましょう。これからのがとても楽しみです。

初めて名前を呼んでもらえた時の喜び、頼りにされた時の喜び、たくさんの喜びを利用者さんにもらっています。悲しい事があった時でも利用者さんの笑顔に癒されます。一人一人の笑顔を大切にしていきたいです。

事務 岩城 道代

相談員メッセージ

私は童里夢の立ち上げから現在に至るまで20数年間、いろいろな形で関わってきました。ノーマライゼーションが叫ばれる時代、童里夢が出来ました。施設入所ではなく、地域で当たりまえに生きる。こういったニーズが高まる中、障害者自立支援法(今は障害者総合支援法)が出来ました。

豊橋に親の願いが実り、童里夢という働く場が出来ました。童里夢は働く場に留まらず、地域で自分らしく生き続けられるためのサポートとして、地域生活支援センターを立ち上げました。グループホームも立ち上げました。相談支援事業所も立ち上げました。この街に、障害者を多く目にするようになりました。障害者を受け入れ、共に生きる社会が出来つつあります。

童里夢の理念は、「共に汗し、共に笑い、共に語ろう」です。

この理念も、本当の意味では、まだまだ道半ばです。現実には差別偏見が根深いものがあります。障害者も健常者も命の重みは同じ、生きていることそのものに価値があり、その人の生き様から学ぶ事が沢山あるということが、差別偏見が余りにも強すぎてその輝きが見えてこないのです。

現代は経済的にどうかという物差しで人の価値を計っています。そういう社会を作ってきた高齢者ですが社会からリタイヤして見えてくるのが、障害者の輝きだと思います。長い時間、障害を背負い生きてきた方々の命の美しさを感じるのは介護状態になった高齢者だと思います。高齢者と障害者が共に生きること、高齢者の心から障害者の差別偏見を消し、そのことで、高齢者の声が大きな社会の変革をもたらしていくものと思います。

未来は精神(心)のあり様で人の価値、尊さを計っていく時代になると思います。

そんな時代を担っているのか童里夢だと思います。

高齢者と障害者が共に暮らすことで、共に学び、共に助け合い、共に存在の意味を確認でき、生きている喜びを培うことと信じます。そのことが社会の輪をひろげ本当の意味で障害者も健常者も共に生きる暖かい人間社会を育む第一歩と思います。

今後も童里夢は共生社会をを目指して歩んで欲しいと切に願います。

河合 みち子

「童里夢で仕事をしている」というと多くの方が理解してくれます。設立当初から地域に根差した事業所にしていくという先駆者の思いが認知された結果だと感じています。今後も皆さんに愛される事業所となるよう精進したいです。

小笠原 朱美

童里夢と出会った頃、疲れた私を一杯のインスタントコーヒーと笑顔で癒してくれた思い出は忘れません。今は本格コーヒーで大勢を癒していますね。これからも誰かを癒し続ける素敵な場所でありますように。

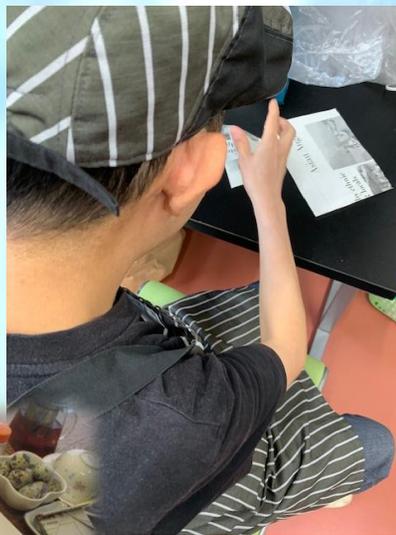
近田 哲子

Cafe 泰



利用者さんと過ごす毎日は人として大切なことを教えられ素敵な時間です。前向きな明るい笑顔と時折見せる純粋な仕草や他愛もない会話。そのすべてが光り輝いています。どんな時もみんなの背中を押してあげられる支援員になります。

熊谷 由美



自分はまだ童里夢に入って2年目に突入したばかりということもあり、正直20周年の実感がないです。ただ喫茶で活動する中で、利用者さんの元気な姿に自分も元気を毎日分けてもらっています。そんな笑顔あふれる童里夢になって欲しいです。

林 竜希

OYATU工房 といろ



奏楽に勤めて4年目になり、はじめは専門学校を卒業したばかりで右も左もわからず不安が多くありましたが、たくさんの方と出会い支えていただきながら、利用者さんと楽しくお仕事に関わることができています。これからも多くの出会いに感謝を忘れず、支援員として成長していけるよう日々努力していきたいと思ひます。

田中 友香里



10周年目は童里夢にて、20周年目は奏楽にて利用者さんと共にお仕事させていただいていることに感謝するとともに誇りに感じています。30周年にむけて利用者さんと歩む未来も楽しみであり共に成長していける自分でありたいと思ひます。

後藤 知子





自然栽培の農業に出会い、利用者さんと共に畑作業の中で、「体に良くて美味しい」と、自信を持って言えるお野菜を栽培しています。これからは地域の皆さまとも共に活動をし、「童里夢があって助かるよね」と言われるような法人になればと思います。

堀江 修司



童里夢20周年おめでとうございます。

グループホーム・レストラン・カフェ・軽作業・障がい者さんとの出会い別れ沢山の経験を与えて頂いた童里夢、これからも、もっともっと楽しく仕事の出来る場所を提供出来るよう応援したいです。

松下 真弓



20周年おめでとうございます。私の息子に知的障害があり育てるヒントをもらいたく始めたこの仕事、12年目突入です。一人一人が家庭の大切な存在。将来安心して過ごせる場所を皆なで提供できればと思っています。

岩瀬 ユカ

20周年を迎えた童里夢に私も携わることができ、とてもうれしくまた、よりの一層頑張ろうという気持ちです。全ての人々が、輝くことができるこの場所がずっと続くことを願い、その場所を一緒に作る一員としてこれからも精進していきます。

稲石 聖子

童里夢に関わってから20年近く経ち、福祉制度、法人内の職場環境など色々なものが大きく変化していくのを目の当たりにしてきました。「今後も変わらない童里夢らしさ・」とは何か？時代の変化に合わせた新しい形とともに追求していきたいです。

栗原 幸太

一人ひとり個性が違います。それがとても楽しいです！！同じ人間同士わかり合い助け合っています。あなたも一緒に生きていける世の中作っていきませんか？

安藤 有未

童里夢20周年という大きな節目に立ち会えたことをうれしく思います！童里夢が今後更に生産活動や地域活動を通し地域に浸透すると共に、地域を元気にするような素敵な法人になっていけるように頑張っていきたいです。

松原 一樹



共同生活支援 ぱあとなあ



管理者
梶尾 義頼

【「育て、養ってもらう」から「自分で立つ、成長する」】

社会福祉法人20周年を迎えるにあたり、童里夢を今まで様々な形で支援して下さった方々にまずもって感謝いたします。20年が経ち法人としては「育ててもらう」時期を過ぎ「自立し成長する」時期に移り変わっていくものと考えています。これからの童里夢は成人を迎えた立派な法人として地域社会と手を取り合ってお互いに「どんな人でも住みやすい社会」に向けて「こんなだったらいいな」「あんなだったらいいな」と夢を語り合い、お互いがお互いの存在を「欠けては実現しないもの」として皆様と共に歩いていく法人であってほしいと願っています。

【「与えられる」側から「与える」側に】

職員は利用者に支援するという形で関わっています。福祉サービスとして与える側に立っていますが実は人として大切なことは何かを自分が教えられることが多く、与えられる側であったと日々反省しながら過ごしています。法人も地域の皆様からの温かい支援を受けるだけでなく、何か出来ることをして与える側にならなければならないと思っています。

【どのような人でもみんな一緒になって笑顔になれる】

「どのような」の中には大人、子供、男性、女性、高齢者、障がい者、外国籍の方、目に見えない暮らしにくさを感じている人、マイノリティの方などこの世界に存在するすべての人々を含みます。世界がこのような人で構成されているのですから手を取り合って、助け合って、みんなが安心して暮らせる社会、少しでも笑顔が増える社会の実現は結果みんなが住みやすい街になっていくことなのだと感じています。

紬・ひまわり

法人設立より20周年を迎えることが出来ましたのも、ご理解下さる地域住民皆さまの温かい御心と協力して下さいの御力添えあつてのことです。次の5年、10年を迎えるべく利用者第一の思想を胸に日々の支援に励んで参ります。
杉浦 澄美

縁あり、1年程前よりばあとなあに関わらせて頂いています。童里夢と同じ地域に暮らす一人として、発展を見させていただいていました。20周年を迎え、新しいステージに向かっていこうとするエネルギーにカンパイ！！
鈴木 千恵子

福祉について全くの素人でどう接して良いか分からずに当初は苦労しました。10年が過ぎてやっと利用者の特性を充分と言えないまでも分かってきました。利用者、家族と支援者も老化している事は否めません。楽しい時はあつと言う間に過ぎて残された時間をどう過ごすか、今後どういう生活をしていくのかを考える時期に来ていると感じています。
森 享子

20周年おめでとうございます。軽い気持ちで始めた仕事は大変難しい事でした。朝になると元気に挨拶して下さる利用者さん、支援がスムーズに出来なかったときに助けて下さる他の支援者の皆さんに心から支えて頂きみんなで楽しい毎日を過ごしていきたいと思ひます。
坂柳 千歳



20年、とても長く、そしていつの間にか過ぎてしまった日々だと思ひます。仲間との信頼、絆があり20周年を迎える事が出来たと思ひます。人に優しい気持ちを持って1年、2年と先に進みたいと思ひます。
大河 まり子



地域生活支援センターすたあと



管理者
山田 明美



私がすたあとで働き始めたのは、平成17年。今年で15年になります。三婆として立ち上げ時から尽力されている小林さんや市古さんと一緒に働かせて頂いています。働く場として、童里夢が作られ、住むところとしてグループホームを立ち上げたこと。そして、みんなが笑顔になるように日々の暮らしを支えるためにすたあとが立ち上げられた事等、開所当時の成り立ちについていつも熱い思いを聞いています。

『一人ひとりが笑顔でその人らしい暮らしを送ることが出来るような事業所にしたい』

そんな思いから小さいながらも沢山の事業を行なっています。

すたあとの利用の中では、四季を感じながら皆さんが集えるように心掛けています。また、通常の事業とは別に年間計画の中で、障害当事者やご家族と一緒に考え学ぶ場として、マザーズサロンを開催しています。この話し合いは気づかされることも多くとても楽しい時間です。また、地域に対して防災学習会や夏祭りも行い障害当事者が地域で安心して生活が出来るように種まきをしています。

子供からお年寄りまでどなたも大切な人財であると思っています。地域を巻き込んで5年後、10年後みんなが夢や希望を持ち続けられる事業所にしていきたいと思っています。私自身、童里夢や地域でお世話になったからこそ多くの経験、喜びを沢山いただきました。私自身のモチベーションは皆さんの笑顔と笑い声です。私の最近の楽しみは利用者さんの成長写真を見ることです。それがとても嬉しく、いとおしくどれだけでも写真を見つめています。

すたあとは、それら色々な事に共感してくれる職員さんが多く嬉しく、そしてたくましいです。これからも、利用者さん、ご家族、地域、職員がともに喜びを分かち合い、困った時にはお互い様と助け合いの精神で皆さんに寄り添って行きたいと思っています。



すたあとを利用される方々の思いや希望の一つ一つに柔軟に応じられるよう、共にスタッフも経験を重ねたいと思います。さらに期待される十人十色の支援を目指し、地域の方からも愛されるすたあとを目指したいと考えます。

米谷 佐知子

すたあと

すたあととは、自分の思いを伝える事ができ、一人一人の意見を尊重し利用者さん・支援員の心地よい居場所になれるようこれからも楽しい雰囲気作りを心掛け「すたあとに行きたい」と言ってもらえるよう尽力します。

小柳津 恵子

皆さんと一緒に得意なことを頑張り時には苦手なことにも挑戦し、楽しみながらたくさん笑い、お互いの夢を語り合って一緒に夢を叶えられる…すたあとがいつまでもそんな存在であるように、力を尽くしていきたいです。

鈴木 清益

すたあとで利用者の方々と接してみんな、それぞれ夢や目標を持ちがんばっておられる姿をご家族と共に寄り添い笑顔をそっと支えられる存在でありたいと思っています。

鈴木 洋美

現在、私達を取り巻く環境は少しずつ変わってきています。変化に対応しながらも、利用される方の意思や希望に寄り添う事を忘れない。これからも、すたあとがそのような場であり続けられるよう尽力したいと思います。

鈴木 俊介



利用者さんの思い、悩み、希望、夢に耳を傾け、寄り添って行きます。誰もが幸せを思えるような人生を歩んで頂きたい。そのためにすたあとは支援のレベルアップを一層行い、一丸となって頑張る参ります。

市古 尚子・小林 万知子

利用者さんの人生を豊かに楽しいものにしたい。そのために全力を尽くしたいと思います。

石川 陸子



施設配置



20周年実行委員

青山 祐介	堀江 修司	鈴木 清益	牛山 智浩
鈴木 早苗	岩瀬 ユカ	熊谷 由美	朝河 碧
	松原 一樹	林 竜希	岩城 道代

社会福法人童里夢 本部

多機能型事業所 童里夢(れすとらんくう、ぱくぱくぱん、雑貨班すまいる)

住所:豊橋市石巻町字野田6番地の5

電話:0532-87-0800 FAX:0532-87-0801

多機能型事業所 童里夢 (Pan-Kan製造センター)

住所:豊橋市南牛川1丁目19-3

電話:0532-26-9088 FAX:0532-26-9089

生活介護事業所 奏楽 (Cafe 奏、OYATU工房という、軽作業 楽²)

住所:豊橋市石巻町字野田35番地の2

電話:0532-87-1500 FAX:0532-87-1510

共同生活支援 ぱあとなあ(紬・ひまわり)

住所:豊橋市石巻町字下屋敷13番地

電話:0532-75-7020 FAX:0532-75-7020

地域生活支援センター すたあと

住所:豊橋市牛川薬師町10番地 南無三館西館

電話:0532-51-6885 FAX:0532-51-6886

20年のふり返り・・・『Uさん講演記録』

統括管理者 橋元 賢治

先日、「ちょっと、こんなのが出てきたけど、読んでみる!?」・・・と、20年以上前の講演記録を手渡された。その記録は障害のある子どもを持つ母親がB4用紙18枚に渡り詳細に書き起こしたもので印刷も薄くなり、ところどころ直しが入り年季が入っている。

講演者のUさんは先進的な取組みで全国的に知れ渡る福祉業界の超有名人。童里夢が理想とし、施設運営の手本にしてきた憧れの人だ。Uさんの言葉は暖かくも厳しい。

「素朴な思い、素朴な発想をまず大事すること!」「気づいた人、出来る人がやればいい!」「本人の声(思い)を聞くこと!(権利擁護の代弁者たれ)」あなたたちは本人主体の福祉サービスを提供しているか・・・と問っている。

びっしりと書き込まれた文字からは、語り手、聴き手の熱い想いが手に取るように分かる。そのパワーが小規模作業所童里夢を経て、社会福祉法人童里夢へと結実し今日に至る。

福祉の仕事を志し、小規模作業所童里夢をはじめて訪問した時の“ここで働けたら楽しいだろうなあ・・・”との、憧れに近いワクワク感を思い出した・・・

支援者として何を大切にしたいか、何を大切にすべきか・・・変わらないもの(童里夢が大切にしている福祉の価値)に触れ、初心を思い出させてくれたUさんの講演記録を紹介してくれた三婆の1人(記録者)にあらためて感謝している。20年はまだほんの夢の途中だ。



社会福祉法人 童里夢